

ZEPHYROS

ゼフェロス No.35

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



ジャン=バティスト・カミーユ・コロー《青い服の婦人》
1874年 ルーヴル美術館

©Photo: RMN/ Hervé Lewandowski/ distributed by DNPAC

コロー 光と追憶の変奏曲 COROT souvenirs et variations

会期:2008年6月14日(土)~2008年8月31日(日)

主催:国立西洋美術館/読売新聞東京本社/NHK

本展覧会は、ルーヴル美術館所蔵の代表作群を中心に、19世紀フランスの画家ジャン=バティスト・カミーユ・コロー(1796-1875)の初期から晩年までの作品を集大成し、その魅力と秘密を再検証するものです。コローを中心にすえた展覧会が、今回ほどの規模で開かれることは世界でも稀であり、国内においては初めてのことです。また、国際的にも初の試みとして、印象派からキュビストまで、コロー芸術に深い影響を受けた画家たち、モネやルノワール、シスレー、ドラン、ピカソ等々の作品の数々を比較展示いたします。

コローというと想起されるのが、霏がかった夢想的な風景のなかにニンフが舞い踊るといった作品でしょう。しかし古典的伝統のなかで画家修業をはじめた

コロー 光と追憶の変奏曲

若き日のコローは、光に満ちたイタリアの風景に魅了され、3度にわたってこの地を訪れて戸外制作に励み、率直な表現が際立つ油彩習作群を残しています。また、寒い季節はパリのアトリエでサロン出品用の大作の構成に取り組みつつ、暖かい季節はフランス各地に写生旅行へ出かけて数々の優れた都市風景や田園風景を生み出し、その鋭敏なリアリズムの感覚と抜群の造形力によって風景画に革新をもたらしました。



ジャン=バティスト・カミーユ・コロー《ティヴォリ、ヴィラ・デステの庭園》
1843年 ルーヴル美術館
©Photo: RMN/ Hervé Lewandowski/ distributed by DNPAC

一方、画家が研究や個人的な楽しみのために折々に手がけていた空想的な女性像も今日高く評価されています。伝統的な図像を自由に組み合わせたこれらの人物画は、彫塑的な表現と確固たる存在感をもって描かれ、普遍性すら感じさせるものです。実際、コローは、20世紀初頭の古典回帰の流れのなかでフランス美術の伝統の正統なる後継者とみなされていきました。

晩年に向かうにつれコローはかつて旅した土地を追想し、アトリエで再構成した多くの詩的な風景画を残しています。自然との真摯な対話を出発点としたこれらの「思い出(スヴニール)」の風景は、少しずつ叙事的な表現をはなれ、音楽的なリズムに満たされていきます。それは喚起力と連想の芸術であり、純粋に造形の力を通して、観る者の感性を画家の心のざわめきに共鳴させていきます。

美術史上の存在の大きさは裏腹に、決して声高に自己の芸術の革新性を主張することはなかったコロー。他作家の作品もまじえ、油彩画・版画約120点が一堂に会するこの機会にひととき耳を澄まし、彼の作品が持つ本質的な「近代性(モデルニテ)」の響きをお聴きください。

(研究員 陳岡 めぐみ)



ジャン=バティスト・カミーユ・コロー
《モルトフォンテーヌの思い出》
1864年 ルーヴル美術館

©Photo: RMN/ René-Gabriel Ojéda/
distributed by DNPAC

◆「コロー 光と追憶の変奏曲」観覧料

一般…………… 1,500円(1,100円)

大学生…………… 1,100円(800円)

高校生…………… 700円(500円)

中学生以下…………… 無 料

※ ()内は20名以上の団体料金

Fun with Collection 2008年7月～8月 見る楽しみ・知る喜び—宗教・芸術家・修復編

the national museum of western art, tokyo



昨年度のプログラム「美術史編」 常設展示室での当館所蔵作品調査方法の見学

Fun with Collectionは国立西洋美術館を楽しむためのプログラムです。これまでも、当館のコレクションや建物をさまざまな視点から紹介するプログラムを行ってきました。今年はさらに一步踏み込んで、作品をじっくり見ること、知ることをテーマとした「見る楽しみ・知る喜び」と題するプログラムを行います。このテーマは昨年に引き続きもので、今年は2年目となります。

1年目の昨年は「美術史・市場・修復編」として、作家や美術市場に関する講演会、当館所蔵作品の調査方法の見学、ギャラリー訪問、修復のデモンストレーション見学など、体験プログラムを交えながらこれらのトピックを紹介しました。

2年目の今年は「宗教・芸術家・修復編」です。西洋美術の根幹を成すキリスト教は作品にどのように表現されているのか、作家の役割や制作の動機は時代と共にどのように変わってきたのか、ま

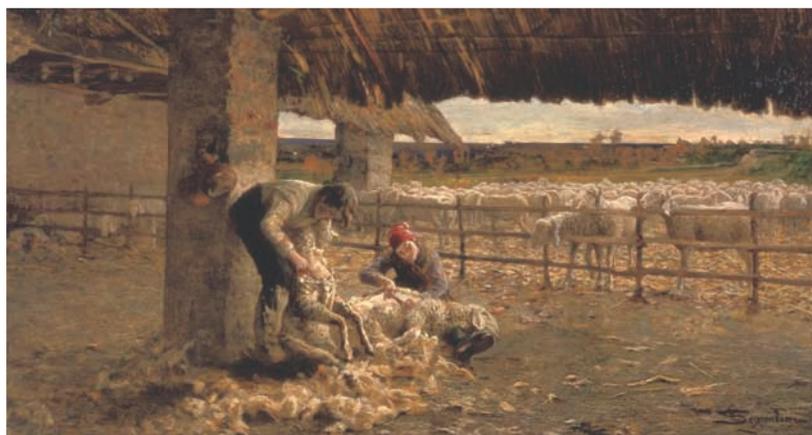


同「修復編」
彫刻の修復のデモンストレーション

た、作品を保存するにはどうしたらよいかを紹介します。今年は、常設展の作品の中から聖人や聖書の物語を描いたものを取り上げ、その主題を読み解きながら作品を見るツアーや、工房や芸術家をテーマとする講演会、タピスリーや紙の修復のデモンストレーション見学などを行う予定です。一般向けが中心ですが、高校生向け、小学校高学年向けのプログラムも用意しています。

視点を変え、様々な知識を得ることで、同じ作品でも新たな発見があるかもしれません。多くの方のご参加をお待ちしています。

(教育普及室研究員 横山 佐紀)



ジョヴァンニ・セガンティーニ《羊の剪毛》1883-84年
油彩・カンヴァス 117×216.5cm

セガンティーニ(1858～1899)はイタリア北部、スイスやオーストリアと国境を接する地域に生まれ、学生時代をミラノで過ごしたほかは生涯のほとんどをこの周辺の町や村で過ごしました。アルプスの白い頂を望む山岳地方に活動拠点を置き、点描技法や象徴主義など世紀末ヨーロッパ美術の動向を反映させつつ、山村の自然や生活、そこに宿る神秘性をテーマにして独自の作風を確立します。41年という生涯にイタリアのみならずスイス、ドイツ、オーストリアなどの展覧会に出品し、高い評価を得ました。

《羊の剪毛》はこの画家の初期時代、北イタリアのブリアンツァで描かれました。セガンティーニは1886年にブリアンツァからスイスのサヴォニニに移住し、この頃から明るい色彩による点描技法をもちいるようになります。ブリアンツァ時代末に描かれた《羊の剪毛》には、初期作品ながら柔らかな光の反映や後の点描に結びつく粗い筆触が認められます。主題である「剪毛」は、山村に働く人々の姿を描き続けたセガンティーニの作品に典型的なものです。セガンティーニは、当時ミラノの若い画家たちが信奉したミレーやコローといったフランスの1830年代派の影響を受けつつ、それを生まれ育った北イタリアでの経験と融合させ、本作のような農村の人々の質朴な生活を繰り返し描いたのです。

この作品はミラノの個人コレクションにあったもので、松方幸次郎により購入され日本にもたらされました。1928(昭和3)年に東京府美術館で展示され、1934(昭和9)年以降国内の個人蔵となっていました。今回当館で所蔵することになり、また新たに松方コレクションゆかりの大作を展覧することとなりました。

(主任研究員 大屋 美那)

「コロ― 光と追憶の変奏曲」展に関連して下記のプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

◆記念講演会

- ① 6月14日(土) 14:00~16:00
 ヴァンサン・ボマレッド(ルーヴル美術館絵画部長・統括学芸員)
 マイケル・パンタッツィ(カナダ国立美術館名誉主任学芸員)
 高橋明也(三菱一号館美術館長・国立西洋美術館客員研究員)
 「今なぜコロ―か」
- ② 7月6日(日) 14:00~15:30
 井出洋一郎(東京純心女子大学教授)
 「コロ―と日本人:受容とコレクションの歴史」
- ③ 7月27日(日) 14:00~15:30
 高橋明也(三菱一号館美術館長・国立西洋美術館客員研究員)
 「コロ― 19世紀美術の体現者」
- ④ 8月3日(日) 14:00~15:30
 隠岐由紀子(帝京平成大学専任講師)
 「風景画家コロ―が描く人物画」

※講演会のタイトルは変更されることがあります。

会場	国立西洋美術館講堂(地下2階)
定員	各回先着145名(聴講無料。ただし、展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です)
参加方法	当日9:30より、館内インフォメーションにて聴講券を配布します。 ※なお、会場の講堂へは企画展改札(地下1階)を通過する必要があり、聴講券のみで通過いただけるのは13:00以降となります。(開場時間は各日共13:30)

◆スライドトーク

当展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行っている下記の金曜日にスライドを使った解説を行います。

日時	6月20日(金)、7月11日(金)、7月25日(金)、 8月8日(金)、8月22日(金) 毎回18:00~(約40分)
解説	鈴木伸子(東京藝術大学大学院)
会場	国立西洋美術館講堂(地下2階)
定員	先着145名(展覧会観覧券が必要です) *直接講堂にお越しください。

◆レクチャーコンサート「コロ―の音楽趣味」

日時	7月10日(木) 18:00~20:00(17:30開場)
企画・トーク	瀧井敬子(東京藝術大学演奏芸術センター客員教授)
演奏	青山忠、小野朋子(マンドリン)、岩城晶子(ハープ)、 北川森央(フルート)、原裕子(ヴァイオリン)
場所	企画展示館会場ロビー(地下2階)
定員	100名(全席自由)
料金	1,500円(税込) ※6/1(日)より、館内インフォメーションにてチケット販売開始。 ※通信販売、当館以外での販売は行っていません。 ※電話等による事前予約は行っていません。 ※展覧会の鑑賞については、別途観覧券(未使用)が必要です。

※詳細については、当館ホームページでご案内しております。

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2008年5月～2008年10月

常設展示 (本館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画、モネ・ルノワールなどのフランス近代絵画と20世紀初頭までの絵画を展示しています。

(常設展示室を一部閉館しております。展示作品については、館内インフォメーションでおたずねいただくか、当館ホームページをご覧ください。)

●常設展示室一部閉館についてのお知らせ●

新館設備改修工事のため、平成19年9月14日から平成21年5月(予定)まで、常設展示室が一部閉館(本館のみ開館)しております。

来館者の皆様にはご不便、ご迷惑をおかけいたしますこと、心よりお詫び申し上げます。

何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

休館日 土日・祝日

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						
5 MAY																		●																		
ウルビーノのヴィーナス 古代からルネサンス 美の女神の系譜 (企画展示室)最終日 5月18日(日)																																				

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
6 JUNE													●																			
● 6月13日(金) 館内点検・展覧会開催準備のため臨時休館																																
● 6月14日(土)～8月31日(日) 光と追憶の変奏曲 (企画展示室)																																

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
7 JULY																		●														
● 6月14日(土)～8月31日(日) 光と追憶の変奏曲 (企画展示室)																																
● 7月～8月 Fun with Collection 2008 見る楽しみ・知る喜び-宗教・芸術家・修復編																																

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
8 AUGU																		●														
● 8月31日(日) 光と追憶の変奏曲 (企画展示室)最終日																																
● 7月～8月 Fun with Collection 2008 見る楽しみ・知る喜び-宗教・芸術家・修復編																																

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
9 SEPT																		●														
● 9月30日(火)～12月7日(日) ヴィルヘルム・ハンマースホイ展(仮称)																																

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
10 OCTO																		●														
● 9月30日(火)～12月7日(日) ヴィルヘルム・ハンマースホイ展(仮称)																																

※展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

●お知らせ●

チケット売場、館内施設(常設ミュージアムショップ、カフェ「すいれん」)でSuica、各種クレジットカードがご利用いただけます。(ただし、一部除外品がございます。)

詳細については、当館ホームページをご覧ください。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間
通常…午前9時30分～午後5時30分
(ただし、秋の企画展開会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中…午前9時30分～午後5時)
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時
*入館は閉館の30分前まで
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日)年末年始(12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日、文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

※誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシヤ神話の神々のひとり、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまざまの花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第35号

編集・発行 国立西洋美術館/平成20年5月20日(年4回発行)
協力(財) 西洋美術振興財団
印刷 (株) アイネット

2009年、国立西洋美術館は50周年を迎えます。